

事業シート（概要説明書）

事務事業名	エコアートフェスタ大阪開催への分担	担当局・部名	港湾局 経営管理部 計画整備部
根拠法令	港湾法（第12条第1項第2号）	担当課名	海務担当、設備担当
事業開始年度	平成19年度	作成責任者	玉井恵一、尾崎隆志

実施方法 (該当するものすべてにチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施
	<input type="checkbox"/> 外部委託
	<input checked="" type="checkbox"/> その他（市民協働）

目的 (何のために)	<ul style="list-style-type: none"> ・海のごみや使用済みペットボトル等を使ったオブジェを展示することで、大阪港におけるごみ問題への理解とごみを捨てない意識啓発を行う。 ・オブジェのコンテストを行うことで、制作に携わった市民や学生・児童等の環境意識の向上と廃棄物から芸術作品を生み出す喜び、制作意欲の醸成に繋げる。
----------------------	---

対象 (誰・何を対象に)	<p>【対象者】 市民、学生</p> <p>【対象物】 大阪港のごみ(ペットボトル、生活用品、電化製品、流木等)</p>
------------------------	--

事業内容 (手段、手法など)	<p>1 ごみアート甲子園</p> <p>(1) 公募により決定した制作者が、大阪港のごみ集積場を見学し、ごみの中からオブジェの材料を選ぶ。 (参加者への啓発)</p> <p>(2) 学校他各所で組み立てたオブジェは当イベント会場である「天保山ハーバービレッジイベント広場」に展示し、夜間にはライトアップで幻想的な空間を作る。(来場者への啓発)</p> <p>(3) オブジェは芸術・環境の専門家の審査により、優秀作品を表彰する。(環境作品の制作意欲の醸成)</p> <p>(4) ペットボトルオブジェは制作者の手で解体し、再生処理業者に持ち込む。(ごみのリサイクル)</p> <p>2 児童を対象としたエコツアー(船内環境学習や海のごみ集積場の見学)・来場者を対象としたワークショップ(ペットボトルで作るおもちゃ教室等)・環境啓発ブース(行政・企業による環境啓発)等</p> <p>【市民協働の取組】</p> <p>相手方：市民、NPO団体、企業、大学等</p> <p>内容：「環境問題」「アート」これら専門的テーマについて必要な知識の指導等(ペットボトルオブジェの制作指導等)を受けるとともに、会場提供や、エコツアーの船舶・人員・教材の提供等、円滑なイベント運営についても協力を得ている。</p>
--------------------------	--

実施済の外部委託の内容と実施主体	委託内容				
	実施主体	<input type="checkbox"/> 民間企業	<input type="checkbox"/> 外郭団体等	<input type="checkbox"/> 市民活動団体 (NPOなど)	<input type="checkbox"/> 市民活動団体 (地域住民組織など)

直接実施している業務の内容	委員会運営、進行管理、予算・契約
----------------------	------------------

事業の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・港湾法第12条第1項第2号に港湾区域及び港湾施設を良好な状態に維持することが港湾管理者の業務として規定されており、本事業が、ごみを捨てない意識を喚起し、ひいては、市として大阪港のごみ発生の抑制につながるものである。 ・大阪市が行政として主体となって行うことで顕彰の意義もあり、メディアに取り上げられることで、市民への啓発効果やクリエイター発掘の可能性を広げている。協賛資金調達が不安定な現状において、市の施策として運営することにより幅広い協力を得ることが可能となる。
---------------	---

コスト	平成21年度（予算）			人件費					
	事業費	1,746	千円	}	職員構成	概算人件費 (平均人件費×従事職員数)		従事職員数	
	人件費	12,883	千円		担当本務職員	12,883	千円	1.6	人
	総計	14,629	千円		臨時職員他	千円			人

事業シート（概要説明書）

	年 度	総 額	内 訳
総事業費 (単位：千円)	H19(決算)	11,741 千円	事業費5,300千円、人件費6,441千円(海務0.6、設備0.2)
	H20(予算)	9,896 千円	事業費2,650千円、人件費7,246千円(海務0.7、設備0.2)
	H21(予算)	14,629 千円	

21年度総事業費内訳 (委託料等を明記)	<p>●平成21年度歳出内訳 (14,629千円) 【人件費】12,883千円 (内訳) 海務担当5,636千円 (0.7人) 設備担当7,246千円 (0.9人) 【事業費】1,746千円 (大阪市分担金)</p> <p><参考>その他、実行委員会にて協賛金によるイベント事業を実施している。 【協賛金】平成21年度(予算)1,500千円</p> <p style="text-align: right;"><参考>実行委員会決算(平成20年度) 1. ごみアート甲子園事業費 2,194千円(大阪市分担金) 電気工事、LED購入、賞金等 2. イベント事業費 2,090千円(協賛金) ワークショップ委託等</p>
--------------------------------	--

	項 目	単 位	H19年度(実績)	H20年度(実績)	H21年度(予定)
事業実績	製作参加者数	人	300	480	500
	来場者数	人	60,000	75,000	75,000

	製 作 参 加 者 1 人 当 り コ ス ト	単 位	H19年度(実績)	H20年度(実績)	H21年度(予定)
単位当たりコスト (総事業費/事業実績)	製作参加者1人当たりコスト	円/人	39,137	20,617	29,258
	来場者1人当たりコスト	円/人	196	132	195

目指す成果 (今後どのような状態にしたいか、なるべく定量的に記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・海のごみは、ペットボトルや生活用品等、生活ごみが半分以上を占める。市民への環境意識啓発はもとより、学生や児童に環境学習の場を提供することで、生活ごみの減少、不法投棄の防止を促し、大阪港のごみの削減に繋げる。 ・市民参加型のイベントとして、市民中心の運営により継続的な実施を目指す。
---	--

達成状況 (目指す成果に対して、実施・達成した状況を記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者数・制作参加者数が増加し、多くの市民に環境に対する意識啓発ができています。 ・大阪港の塵芥回収量 (m³) が減少している。() は回収船の稼働日数 平成18年 1,374m³ (184日)、平成19年 1,065m³ (140日)、平成20年 1,113m³ (186日) ・協力団体が定着し、参加者も増加傾向にあり、一定の市民理解や協力が得られている。
---	--

事業の自己評価 (今後の事業の方向性、課題等)	<ul style="list-style-type: none"> ・当該事業はまだ知名度も十分でなく、協賛資金等も不安定な現状であり、市の関与無くしては事業自体が成り立たない状況である。 ・ただ、参加者や運営協力者は増加傾向にあり、今後、民間や市民等が主体となって実施できるよう、多数の市民の参加を呼びかけると共に、本市分担金を漸減していく。
-----------------------------------	---

さらなる民間活用・市民協働推進の予定	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (予定する業務と、想定しうる実施主体を下欄に記入)		<input type="checkbox"/> 無	
	業務内容	委員会運営、進行管理、予算・契約		
	実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 民間企業 <input type="checkbox"/> 外郭団体等 <input checked="" type="checkbox"/> 市民活動団体 (NPOなど) <input type="checkbox"/> 市民活動団体 (地域住民組織など) <input type="checkbox"/> その他 (大学)		

比較参考値 (他自治体での類似事業の例など)	浜松市が平成13年から実施している「はままつ冬の蛍フェスタ」 ・イルミネーションや多彩なイベントによって冬の都心に魅力的な空間を創出し、訪れる多くの人々に、都心ならではの様々な出会いと感動を提供する都市型イベントを実施。本事業と同様、市民・企業・行政等で連携し実行委員会主催のイベントを運営している。ただし実質、浜松市商工部商業政策課が委員会運営、振興管理、予算・契約など全ての業務を担っている。 ・「エコアートフェスタ大阪」は、この事業のひとつ、市民が集めたペットボトルをLEDでライトアップするオブジェを高校生らが制作し展示する「PETボトルオブジェ」を参考にしている。						
	平成20年度	来場者数	770,000 人	予算規模	66,300 千円	うち浜松市	52,000 千円

特記事項 (事業の沿革等)	
-------------------------	--

あゆみ

平成 15 年 11 月 ボランティアによる清掃イベント
「クリーンアップキャンペーン」を開始

平成 17 年 12 月 「ECO クリスマス」

平成 18 年 7、8 月 「ECO 夏祭り」
読売テレビ「わくわく宝島」と同時開催

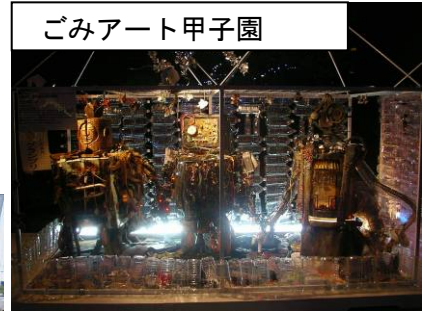
平成 19 年 11 月 「エコアートフェスタ大阪」

平成 20 年 10 月 「エコアートフェスタ大阪 2008」

エコアートフェスタ大阪



ごみアート甲子園



小学校制作風景



エコツアー



シンボリックアート

官

協力・賛同

役務提供…環境啓発ブースの出展（海上保安庁）
後援名義（大阪府、教育委員会等）

協賛企業・団体

協力・賛同

協賛金、物品
役務提供…環境啓発ブースの出展
（ミズノ、パナソニック電工等）

市民、学生、児童

エコアートフェスタ

- ・『ごみアート甲子園』
- ・エコツアー
（広報船「夢咲」での船内環境学習等）
- ・ワークショップ
（ペットボトルで作るおもちゃ教室等）
- ・環境啓発の展示

エコアートフェスタ大阪実行委員会

官（市）

事務局運営
事業費負担（分担金）

民（企業、NPO）

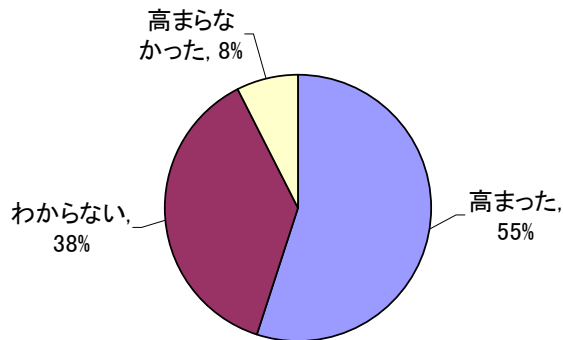
学（大学、等）

役務提供…
エコツアー船内環境学習
の人員、教材
（サントリー・海遊館）
会場提供…
会場警備、会場電気代
（大阪ウォーターフロント開発）
ワークショップ出展、等

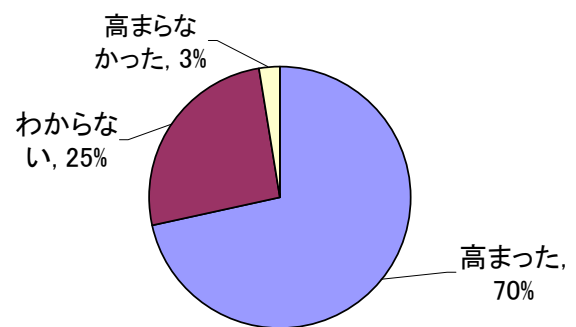
ごみアート甲子園製作指導
（神戸芸術工科大学）
広告デザイン
（大阪市立デザイン研究所）
ワークショップ出展、等

エコアートフェスタ大阪 アンケート結果

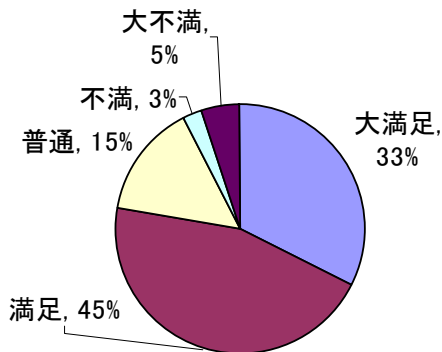
環境に対する意識は高まりましたか？



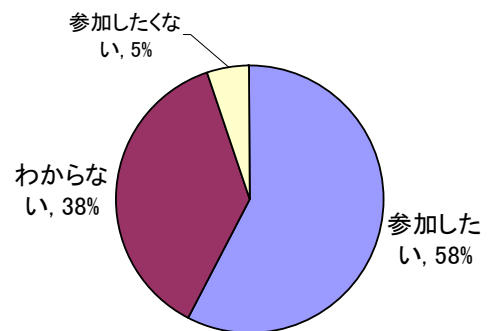
芸術に対する興味は高まりましたか？



『ごみアート甲子園』の満足度は？



また機会があれば参加したいですか？



(主な意見)

- ・リサイクルへの関心が深まり、環境について考えるきっかけになった。素晴らしい作品に大いに刺激を受け、とても勉強になった。
- ・観覧車の中から見たエコアートがすごくきれいでよかった。もっと作品がふえたら良いなあ。
- ・初めてゴミで作品を制作したので良い刺激になった。環境に対する意識も高まり参加してよかった。
- ・自分たちで作った作品を他の作品と見比べたりできて今後の作品を作ることにとても参考になった。今の大阪のごみの状況を知ることができ、ショックと共にこれからぼく達がどうにかしないといけないという実感が出てきた。
- ・今回、ごみアート甲子園、甲子園という年齢でもないのに参加させていただいてとてもいい思い出になった。思っていた以上に規模の大きな大会だった。
- ・賞レースがある事で参加する子供達のモチベーションが高まった。芸術的評価もさることながら、会場での人気などの人気賞的な部門があればと思った。
来年もし開催される場合に当たっての意見交換会などあれば参加者側として会に参加したい。
- ・つくるのが大変だった。忙しかった。
- ・制作の材料をごみにしない、作品をつくってごみを出しては意味がない。